

令和2年度第4回 感染症発生動向調査部会

令和2年12月16日

月番：大西 秀典

1 前月の感染症発生動向について（2020年第45週～第48週・11月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は31例で、2019年の同期累計報告数373例、本年の累計報告数が320例であり岐阜県下において減少傾向である。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が2例(0157が1例、0111が1例)であった。
- ・ 四類感染症については、つつが虫病が9例、レジオネラが5例報告されている。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、アメーバ赤痢が1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が2例、侵襲性肺炎球菌感染症が6例、水痘(入院例に限る)が2例、百日咳が1例であった。百日咳の1例は70歳代の患者で、昨年までみられた学童期での多発はみられていない。
- ・ 指定感染症として、新型コロナウイルス感染症が今月の報告数は376例、本年累計1066例と岐阜県下においても急激に増加傾向である。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザは例年11月頃から発生が増え始めるが、今年は45週、46週にそれぞれ発生が1件のみであり、前年同期比0.3%と発生が極めて少ない状況である。
- ・ RSウイルス感染症も、発生がゼロであり、例年とは様相がまったく異なる。
- ・ 同様に手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナの発生もほぼゼロの状況が続いており、マイコプラズマ肺炎も飛騨地区で3例報告があるがそれ以外の地域での発生はゼロである。
- ・ 一方で、咽頭結膜熱は45例の発生があり、前月比170.5%、前年同期比104.7%と増加傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は56例の発生があり、前月比57.4%、前年同期比34.8%と例年の半数程度の発生である。
- ・ 感染性胃腸炎は190例の発生があり、前月比96.5%、前年同期比34.2%と例年の半数以下の発生である。
- ・ 水痘は16例の発生があり、前月比222.2%と増加傾向であるが、前年比55.2%と昨年の半数程度の発生で推移している。
- ・ 突発性発疹は50例の発生があり、前月比105.9%、前月比76.9%で、例年よりは発生が少なめであるが、コンスタントに発生はみられている。

2 検討すべき課題

- ・ 鳥インフルエンザについて（事務局から）

3 情報提供すべき事項

・2020年10月よりロタウイルスワクチンの定期接種が開始された。しかしこのワクチンの接種対象年齢において、重症複合免疫不全症(SCID)患者の症状が顕在化し診断されている例が極めて少ないため、ロタウイルスワクチンを未診断のSCID患者に接種してしまうことによる重篤な副作用の発生が懸念される。

4 情報提供（月番委員専門分野から）

・次年度から岐阜県下で新しい新生児マススクリーニング検査としてSCID、脊髄性筋萎縮症、ライソゾーム病、副腎白質ジストロフィーを対象疾患として事業を開始予定です。2021年2月21日(日)13:00-16:30に第2回市民公開講座の開催を予定しています。WEB開催となります。

・2021年2月6-7日に第4回日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会が開催されます。WEB開催です。先天的に感染症に罹患しやすい疾患を対象とした学会です。

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き」の更新について
- ・ノロウイルスの感染症・食中毒予防対策について

<検討結果>